

宮津市庁舎移転整備に向けた基本計画

ラフプラン A案/B案

2025.02.03

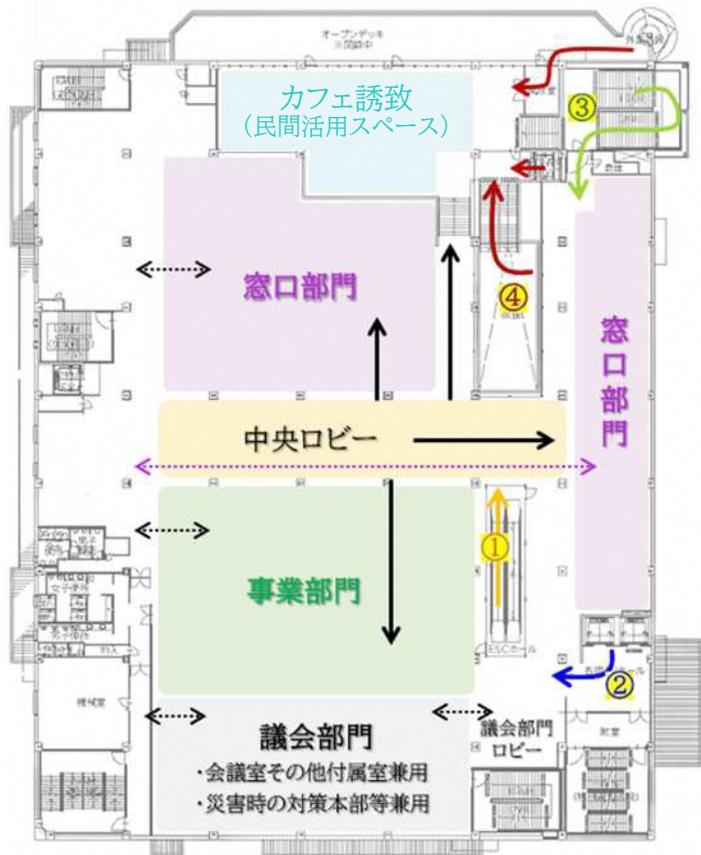
主な改修範囲: 2階・4階

# 主要部門の配置パターン A案 (より「シンプルで経済的な庁舎」を重視したプラン)

**2階に窓口部門、事業部門、議会部門を、4階に管理部門を配置**

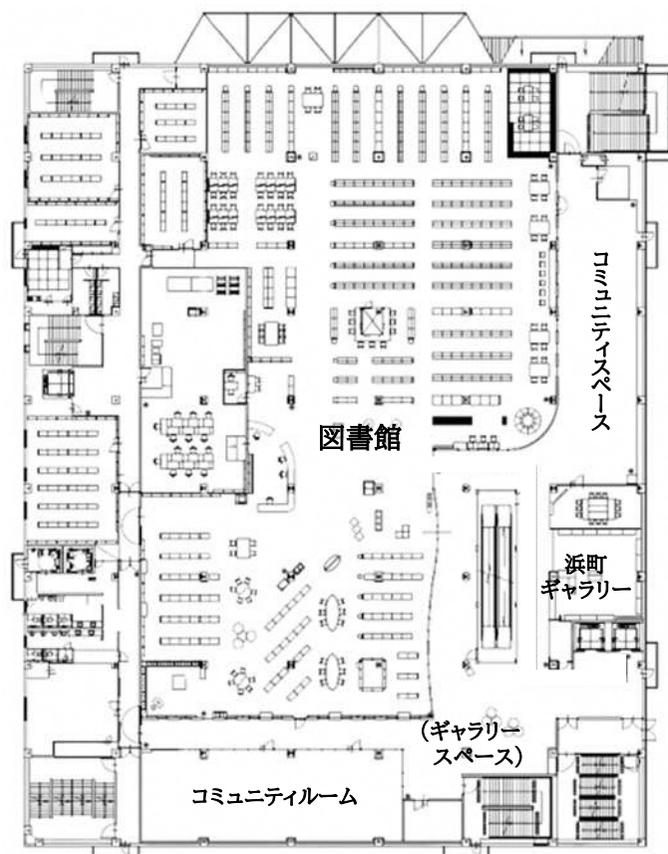
【2Fゾーニング】 全面改修

市民環境部・健康福祉部・産業経済部・建設部・議会



- ・カフェ誘致(民間活用スペース)
- ・バックヤード その他

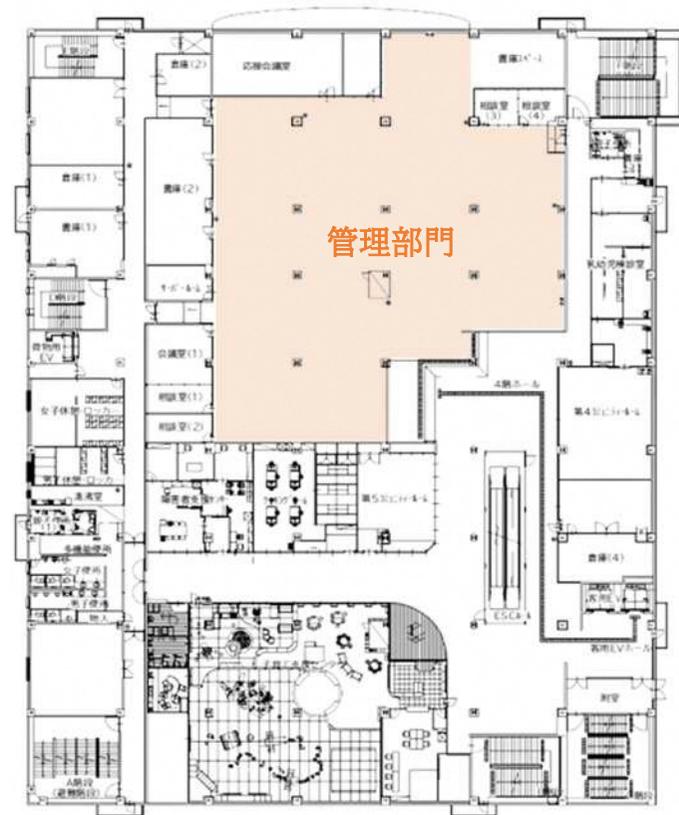
【3Fゾーニング】 現状を維持



- ・図書館
- ・コミュニティスペース
- ・コミュニティールーム
- ・浜町ギャラリー
- ・バックヤード その他

【4Fゾーニング】 レイアウトを変更

総務部・企画財政部・教育委員会



- ・障害者支援センター
- ・クッキングルーム ・子育て支援センター
- ・乳幼児健診室 ・コミュニティールーム
- ・バックヤード その他

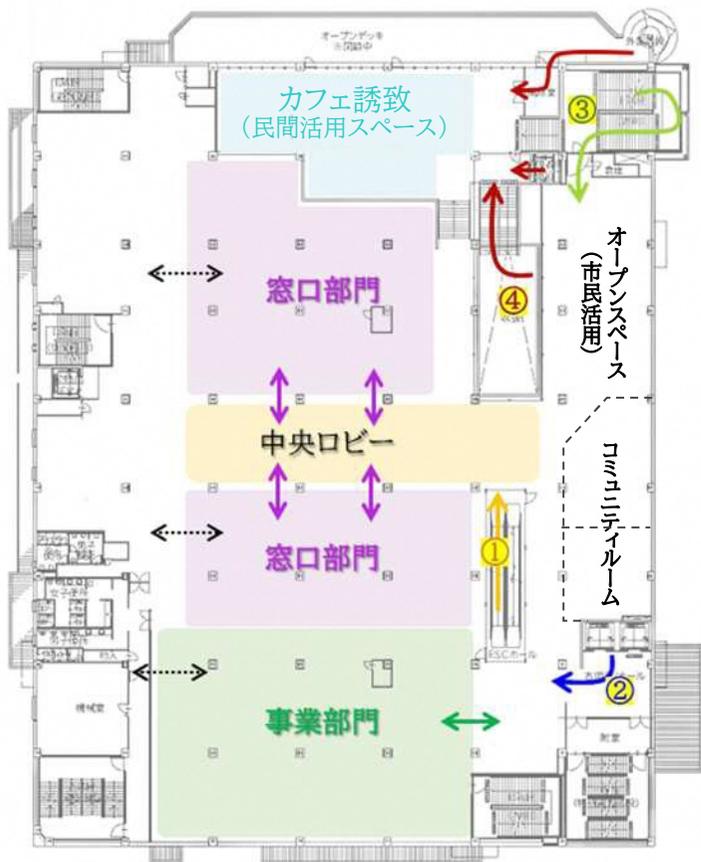
主な改修範囲:2階・3階・4階

## 主要部門の配置パターン B案 (より「利用しやすく親しみのある庁舎」「機能的な庁舎」を重視したプラン)

2階に窓口・事業部門、3階に議会部門、4階に管理部門を配置

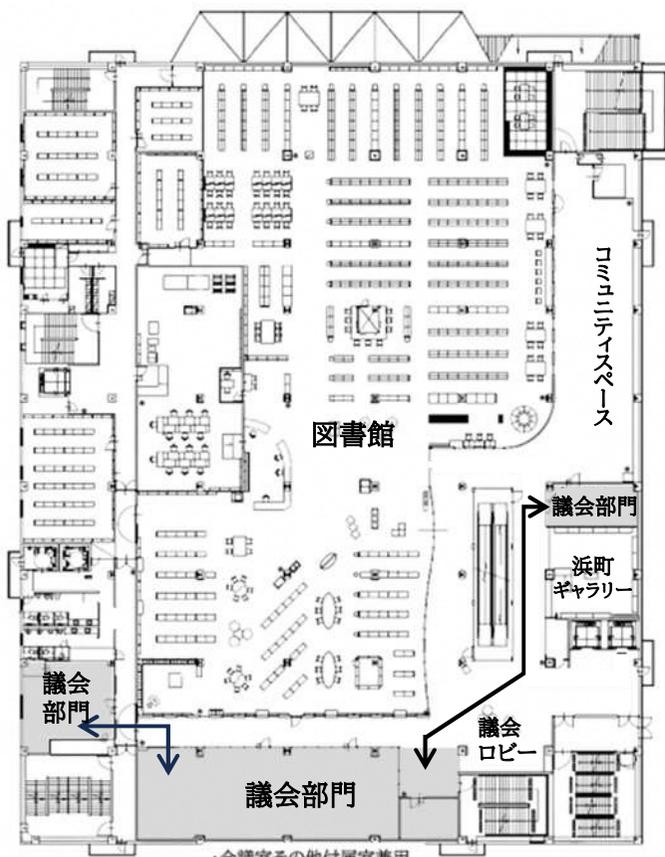
【2Fゾーニング】 全面改修

市民環境部・健康福祉部・産業経済部・建設部  
(コミュニティルームを3Fから移設)



【3Fゾーニング】 一部改修

議会  
(コミュニティルームを2Fへ移設)

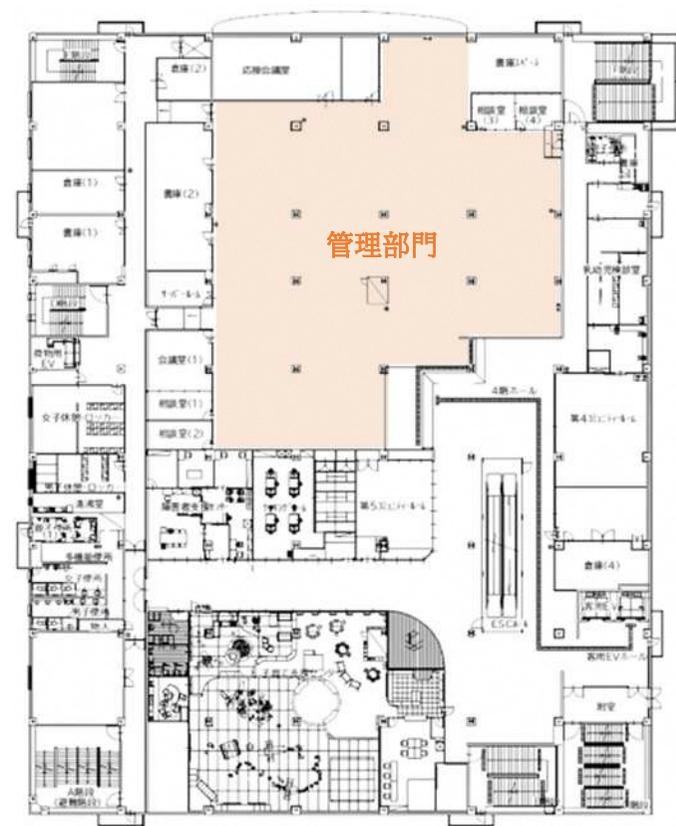


・会議室その他付属室兼用  
・災害時の対策本部等兼用

- ・図書館
- ・コミュニティスペース
- ・浜町ギャラリー
- ・バックヤード その他

【4Fゾーニング】 レイアウトを変更

総務部・企画財政部・教育委員会



- ・障害者支援センター
- ・クッキングルーム ・子育て支援センター
- ・乳幼児健診室 ・コミュニティルーム
- ・バックヤード その他

- ・カフェ誘致(民間活用スペース)
- ・コミュニティルーム/オープンスペース
- ・バックヤード その他

## 【計画の特徴】

	A案	B案
■基本コンセプト■	より「シンプルで経済的な庁舎」を重視したプラン	より「利用しやすく親しみのある庁舎」 「機能的な庁舎」を重視したプラン
<b>利用しやすく親しみのある庁舎</b>	○	◎
市民にとって親しみが持て、誰もが <b>気軽に集える交流の機能</b> を有する庁舎とする。	市民の利用率が高い窓口機能を2Fに集約するとともに、カフェ誘致スペースを設ける。	市民の利用率が高い窓口機能を2Fに集約するとともに、カフェ誘致スペースを設けることに加え、オープン・スペース、コミュニティルームを隣接配置する。
<b>災害にも強く、安全・安心を確保する庁舎</b>	○	○
強固な防災性を備えるとともに、万が一の大災害時、非常時、緊急時において、災害対策拠点として必要な防災機能を備え、 <b>市民の安全・安心</b> に資する庁舎とする。	庁舎が新耐震(1981年)に合致した建築物であるミップルに移転することで、現市庁舎と比較して、A案、B案ともに災害に対し安全性が向上する。	
<b>シンプルで経済的な庁舎</b>	◎	○
過度な装飾は排除し使いやすさを重視するとともに、将来の財政負担が過大とならないよう、初期投資も維持管理も <b>低コスト</b> な庁舎とする。	移転による改修範囲を2Fと4Fとし、3Fを現状維持することで必要最小限の範囲とする。 移転改修に伴うコストを抑えられる。	移転範囲が2・3・4Fに渡り、A案より広範囲となる。 移転改修に伴う費用はA案よりは若干割高となる。
<b>機能的な庁舎</b>	○	◎
市民の <b>利便性向上</b> を図るため、分散している行政機能を <b>1か所に集約し機能性を高める</b> とともに、設備のバリアフリー化はもとより、国際標準であるユニバーサルデザインを導入し、ダイバーシティにも配慮した来庁者にやさしく、職員が働きやすい庁舎とする。	ミップルビルへの全面的な移転及び窓口部門を2Fに集約することで行政機能を向上するとともに、来庁者利便を向上する。 移転済み部門の範囲をできる限り現状維持するため、新規移転部門とのワークスペースに面積差が生じる。	ミップルビルへの全面的な移転及び窓口部門を2Fに集約することで行政機能を向上するとともに、来庁者利便を向上する。 さらに市民利用スペースを豊かにすることで市民利便性をより向上する。新規移転部門と移転済み部門を再配置することでワークスペースのバランスの取れた計画となる。